

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400211		
法人名	株式会社 ハピネライフー光		
事業所名	グループホーム すいせん渡橋		
所在地	島根県出雲市渡橋町 304-1		
自己評価作成日	令和5年10月12日	評価結果市町村受理日	令和5年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和5年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的でアットホームな雰囲気や関係作りを心掛けている。
ご本人のペースに合わせ、細かい訴えも見逃さないような声掛けや対応をする様にしている。
ご家族様には、毎月 ご様子をお伝えする簡単なお手紙や写真入りのお便りをお送りし、
面会や受診で来所された際には、日々のご様子をお伝えし、信頼関係を築くようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商業施設が多い町中に位置し、同敷地内にデイサービスと有料が隣接し小規模と同じ建物にグループホームがある。平成21年にスタートし歴史を重ねてきたが、コロナ禍の生活が続く中、昨年末には施設内で新型コロナウイルス感染者が出た為、大幅な業務の見直しや勤務調整で対応。認知が進み新型コロナウイルスの理解ができない利用者への対応の困難さを感じつつも、チームワークで乗り切ったように見受けられた。利用者の入れ替わりもある中、充実した個別対応ができていないことを反省点に上げる職員の声がかれたが、利用者の様子を伝える文書やこまめな電話連絡等は、家族関係者との信頼関係に繋がってきている。小規模と合同で外出等の行事をしたり、ボランティアの受け入れを開始するなど段々と動きつつある。今後も複数サービスの利点を生かし、職員個々にレベルアップすることで個別ケアの充実に繋げていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	以前は、朝礼時に唱和をしていた各部署に経営理念を掲示しているが、意識をして読み上げたり見たりしている職員はいないと思われる。	デイ、小規模、有料と複数のサービスがあり、開所当時から理念を引き継いでいる。それに基づいてグループホームの毎月の目標を作成している。達成できそうな身近なものとし、意識統一に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年1回(外部をお呼びする)ハピネ祭りが3年ぶりに開催され、外部の方も来ていただく予定だった。当社内のコロナ感染者が増え始め、急遽内部だけで行った。最近ではボランティアの方(3名以内)に来ていただいている。	地元のコミセン祭りに、今年も4事業所で合同で作成した貼り絵を展示。人が少ない時間帯に少人数で見に出かけている。地域の溝掃除には職員が参加。ボランティア交流も少人数で解禁し徐々に交流の機会を増やしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の書面での発信のみとなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しているが、コロナ禍にて内部だけでの開催が続き、利用状況や活動、研修報告など、行政等には書面での報告になっていた。7月の開催より、久しぶりに行政等の方々に来ていただいた。	コロナ禍で事業所内のみで会議を行っていたが、7月には家族と市の担当課からの参加を得て久しぶりに集合して開催している。利用者の状況や行事等、活動の様子を伝え意見を得るようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば、随時連絡を取り合っている。書面や連絡にて協力体制で取り組んでいる。	市の担当課には毎回会議の様子を伝えたり、合同開催の際も参加を得て助言を得ている。直接的に関わる機会は少ないが、毎月市から待機者の状況等データが来るので、空き情報を伝えるなどいい関係性が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を3か月に1回行っている。 6か月1回は内部研修を行い、職員全員にも理解してもらうようにしている。	帰宅願望が強く実際窓から出られた方があり、玄関は施錠している。定期的に行っている委員会では拘束廃止に向けて検討したり、職員の意識改革の必要性から虐待を含めて研修に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が気を付けて観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がなく、理解している職員はまだ少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に加えて、入居時補足説明書を作り、重要な事をしっかり説明し、ご家族の疑問にも答えられる様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた際、職員が日頃の様子をお伝えする様にしており、その時に意見や質問をいただいている。 いただいた要望や意見は、職員間で共有し、運営に反映させている。	毎月担当職員から様子を伝える文書や、家族宛に手紙を書く方もあり一緒に送っている。全体の行事等の写真も毎月送っている。受診に付き添う家族には来所の際話をしたり、電話で話す機会も多くあり意見を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1日2回(朝・夕)の申し送り時や、ケアカンファレンスで出た意見を施設長、本部の上層部に届けている。月1回の職員会議には上層部も出席し、職員の意見や質問を伝える場がある為、業務に取り入れれたり改善したりしている。	年に1回、本社と職員の面談の機会が設けられている。管理者は、会議の場では意見が出にくいこともあり、日頃から職員と話すようにしたり、新規職員とはこまめに面談の機会を持つようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議等で意見を聞きながら反映させている。月2回の管理者会議にて、会社への要望も伝えている。希望があれば、個人的に上層部への面談も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修にて取り組んでいるが、外部の研修にも参加して行きたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会はほとんどない為、今後は増やしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各入居者に担当職員を付け、担当者を中心に気付いた事があれば、介護記録、業務日誌、連絡ノート、カンファレンス、朝夕の申し送り時に伝え情報の共有をし、良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話連絡の際に、ご家族から要望等をお聞きし、意見を尊重する様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々なサービスや支援の方法を提案、説明を行い、柔軟に対応出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ある程度、自立出来ている方に関しては、ご自分のペースで出来ているが、介助が必要な方に関しても声を掛けながら、こちらのペースにならない様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診の際には、ご家族にも同行していただき、ご家族と協力しながら援助する関係が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防にて、ご家族以外の方の面会、外出は出来ない為、交流は出来ないが、携帯電話で昔からの友人と連絡を取り合っている方もおられる。	コロナ禍で面会制限は続く中でも、夫婦で月2回食事に行く方、各週で実家に外泊する方、家族と病院受診する方と、限られてはいるが継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置などを考え、入居者同士に輪が出来やすい様に気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等があれば随時受けており、支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の声を楽しみ、やる気に繋げる様な支援に努めている。定期的に希望食をお聞きして昼食レクを行ったり、室内にこもりがちな時は、中庭へ出たり、駐車場へ花を見に行ったり、ドライブなどを行っている。	帰宅願望の強い方や1人で生活したい方などの認知が進み、これらの方の思いの把握がしにくいケースがある。家族からはここでの生活の継続を希望する意見が多い。役割を持って喜びに繋がるよう計画している。	職員個々にレベルアップすることで、より充実した個別援助が提供できるよう検討いただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書やカンファレンスなどを通じて、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細かく記録をし、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居契約時にお聞きしたご家族の思いを基に、面会時などに都度、ご希望、悩みなどをお聞きし、ご本人の思い、希望、悩み、課題を取り入れプラン作成に反映させている。	サービス内容に合わせて実行表で日々チェックし、モニタリングも3か月に1回まとめている。集合しての担当者会議はコロナ禍でできないが、様子を伝える電話の際や面会時に要望を聞くようにして、計画作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かく記録し、把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス以外はほとんど出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なかなか、出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	市内の病院より、3名の方が往診を受けている。他1名は通院支援を使い、5名はご家族と以前からのかかりつけ医に受診していただいている。日頃の健康状態を受診時にお伝えし、症状に合わせた薬の処方をしていただいている。	往診の方、通院支援を受ける方、家族と受診する方および入所前からのかかりつけ医を継続している方と個々の要望・実情に合わせて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変や異常があれば、他部署の看護師に診てもらい処置をしている。受診が必要と思われる場合は、かかりつけ医に連絡をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をされた際には、入居者様の状況を踏まえ、入院先の病院への情報提供をし、病院、ご家族との連携をとっている。また、治療や入院期間に応じて、どこまで回復されたら戻れるかを病院、ご家族と連絡を取り合い、共有を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていない。重度化については、状態に応じて主治医、ご家族、職員と連携を取りながら相談、検討を行っている。	医療行為ができないことや、職員体制も充分に対応できない為、看取りには取り組んでいない。重度化に向けては、家族関係者と話し合いの機会を持ち進めている。特老の申し込みを出すなど、状況の変化に合わせて対応するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時対応の研修の機会を設け、日々のケアの中で、急変時の対応について職員への意識付けを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	備蓄は有料ホームにある。地域の方にも参加していただき避難訓練を行っているが、全員がいざという時に的確に判断出来るかは不安である。近年、水害が多く、的確に避難する判断、連絡などの連携が出来るかといえば不安が大きい。	町中で平坦な場所のであり、自然災害には遭いにくい為、主に火災を中心に訓練している。同じ建物の小規模と合同で行ったり、夜間は隣接する有料と夜間想定で実施している。通報や消火器の訓練も合わせて行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助や入浴時など、プライバシーを尊重する様にしているつもりだが、適切でない時もある。周りの職員が気付いたら注意し合う体制も、不十分である。	入浴や排泄介助の際の声がけには注意するようにしているが、大きい声になることがある。虐待、身体拘束、接遇等の研修で、ケアの基本として取り組むこととしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを工夫し、ご本人の思いを引き出せる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えない時もあり、職員側のペースになってしまう時もあるが、極力添える様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えは、なるべく入居者様と一緒に選ぶ様にしている。出来ない方は、同じ服にならない様、職員が注意して選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳や台拭きなど、出来る方には していた だいている。行事やレクの際には、野菜切りなどの準備を手伝っていただいている。	主食と汁物は作っているが、朝夕の副食は湯煎で提供できる物、夕食は業者のお弁当を利用している。行事に合わせて食事を作ったり、誕生会では鍋をしたり、少しでも食事を楽しめる機会を増やすようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通食、刻み、お粥でそれぞれの方に合わせて対応している。カロリー制限のある方はいないが、塩分控え目の方は汁物を控えたりしている。水分量も少ない方は、お茶以外の物も提供する様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは自立の方は自主的にされる。介助がいる方には声掛け、見守り、介助を力に応じたやり方で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室にトイレを設置している方も、日中はなるべく共用トイレを使用していただいている。尿意、便意がなく、自力歩行が難しい方は、時間を見ながら声掛けし介助している。車椅子使用の方はご自分で訴えられる。他の方は自発的にトイレへ。	殆どの方が紙パンツにパットを使用。トイレの回数がかかり多い方や、排泄場所が決まらない方、パットの処理ができない方など、個々に合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、軽い運動を行い、運動への援助をしている。水分摂取も促している。便秘が及ぼす影響については、職員の理解は出来ていると思われる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は基本的に決まっているが、時間帯や順番は、その時の状況で職員が決めてしまっている。時々、入居者の体調や気分などに応じて入浴日を変更することがある。	少し大き目の家庭浴槽で、週2回午前中に入れるように声かけしている。中に入らない方はシャワー浴だが、中でゆっくりする方が多い。嫌いな方もあるが声かけを工夫したり、個々に合わせた対応としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のペースで、居室で休んで頂いている。眠れない様子の時は、ホールで好きな時間まで過ごしていただける様、声を掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者のファイルに、処方箋の効果や副作用、用量がわかる様に綴じている。処方の変更があれば記録や連絡ノートに残してあるが、深くは理解出来ていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や嗜好品を頭にいれ、個別レクを提供している。裁縫が得意な方には、入居者の衣類の繕いをしていただいたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、外出支援はドライブ(花見の時期)しか出来ていなかったが、今後は公園や出雲空港などの外出も考えている。ご家族との受診時に買い物や外食をされる方もいる。地域支援はほとんど出来ていない。	以前は施設周辺をぐるっと散歩することが多かった。コロナ禍でなかなか外出の機会が持てなかったが、小規模と合同で椿の花を見に出かけている。施設前の駐車場にテーブルを出してお茶するようにして、外気に触れる機会を増やしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は所持されない様、ご家族にお願いをしている。必要な物があれば、ご家族に買って持ってきていただくか、預り金で職員が買いに行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方が3名。ご家族や友人と話をしておられる。年賀状、暑中見舞い葉書をご家族に書いて送っている。毎月、県外の娘さまより手紙と写真が送って来るので、お渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは程よい明るさの照明にしている。ほぼ一年中花を飾り、季節を感じられる様にしている。 玄関の飾り付けや壁面を毎月替え、季節を感じられる様にしている。	住宅地の中で交通量は多いが施設内は静かで、木目調で落ち着いた雰囲気。L字型の建物で、中央ホールからどの部屋も見ることができる。外は見えにくいですが、手作業での作品やプランターでのトマト栽培から季節が感じられるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机の配置で、気の合った方、また全員とも話しやすい様にしている。居室やトイレ、浴室以外で1人になれる空間は無い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っておられた家具や寝具、ぬいぐるみなどを持ってきて使っていただいたり、居心地よく過ごしていただける様に配慮している。	使い慣れた物の持ち込みを薦めているが、ベッド、タンスが備え付けの為あまり大きな家具等は少ない。テレビ、ラジオ、掛け時計等を置いたり、誕生日祝いや家族や孫の写真を飾り、くつろげるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自の居室の戸に氏名の紙を貼り、ご自分で居室出来る様に援助している。		